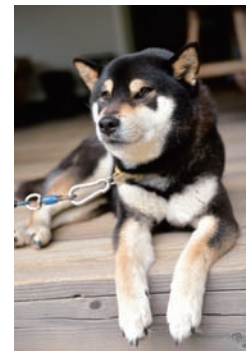




「春野のすばらしさを見つけて、みんなで分かち合おう」という有志が集まる団体「春野倶楽部」のメンバー。地元の農家や職人などが自宅や工房を開放して、山里の魅力を来場者に紹介する「春野人めぐり」を毎年2回開催している。詳細は春野人めぐり公式ブログにて (<http://harunobito.hamazo.tv/>)



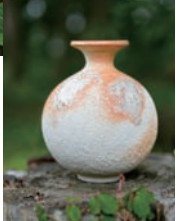
ウッドデッキで自由きままに寝転ぶ、愛犬「ハルちゃん」。「犬を飼うのも長年の夢でしたから」と語るのは、奥様のむつみさん。

吉田克秀
さん
浜松市天竜区春野町
移住歴9年

自然とともに、春野とともに。
謳歌する「第3ステージ」



自然にもなじむ吉田さんの作品。



土地が見つかつたら、まずはこの景色なじむ家作り。ログハウス風の建物には、すべて地元の木材を使用しています。外壁塗りや水道管を通すのは自分たちの手で行いました。畑を耕したり、新割りをしたり、独学で学んだ陶芸もそうなのですが、「自分たちでできることは自分たちでやろう。その方が充実した人生だろう」と。貴重な体験でしたね。

もちろん、都会に比べれば不便なこともあります。不自由とは思いません。むしろ「余裕のある豊かさ」のようなものがあります。生活するためのお金は少量で済みます。地域の農家や猟師の方がとても密になる。近隣の農家や猟師の方がいろいろな食材を持ってきてくれたりしてね。春野町でとれる山菜や鹿肉は絶品なんです！



Profile

25年間、大手学習塾のマネージャーとして“転勤族”の日々。退職し、子育てを終えたタイミングで地元・浜松市に帰省。両親の近くに住みながら「人生の第3ステージ」を謳歌するため、妻とともに天竜区春野町へ移住。憧れていた土着の暮らしと趣味の陶芸を満喫しながら、「春野倶楽部」という団体で各種企画やイベントを開催する。同居するのは愛犬（ハル）と愛猫2匹（ショカ、セイカ）



住居に隣接する陶芸工房「春野陶房」。骨董集めから端を発し「自分の手で焼き物を」という吉田さんの夢がカタチになった。独学で習得した陶芸だが、その作品群は味わい深いものばかり。展示スペースもある。

広大な敷地は約1000坪。雑木林に囲まれた自然豊かな風景に、住居、畑、陶芸工房、新収納スペースなどが点在する。畑では、きゅうり、トマト、ナス、唐辛子のほか、イチゴなどの果物も栽培。



浜松市中山間地域への移住をサポートするWebサイト <http://www.hamamatsu-inaka.com/>
浜松市田舎暮らし推進事務局(浜松市 市民協働・地域政策課) TEL.053-457-2243



自宅は、田舎の情緒が溢れる石畳の坂の途中。近くには野菜畑や薪割りスペースも。3DKの一軒家で家賃は1万円(駐車場付)。ちなみにカフェスペースの家賃も1万円だそう。最近では、空き家に関する問い合わせや企業誘致の相談なども増えてきているという。富士川さんの移住がきっかけで、山里を取り巻く環境に新しい風が吹き始めている。



インターネットの普及もあり、仕事をしながら住む場所はありません。重要にならなくなっています。週に1〜2日は打ち合わせのため東京や神戸に出張していますが、それ以外は水窪町で生活しています。サラリーマン時代と違って、通勤や就業時間のストレスがないし、生活コストも信じられないくらい安い。そして何となく自然豊かで水がおいしい！水窪

町は、子育てをする上でも最適な環境だと思っています。移住当初持っていた不安のほとんどが取り越し苦労でした。メリットの方が大きかったですよ。

水窪町は妻の母親の出身地。全く知らない土地ではなかったのですが、住んでみると本当にみなさん気さくで親切。「この人たち、なんでこんな田舎に？」って不思議がられましたけど(笑)。郷に入れば郷に従えて、地元の活動に積極的に参加して交流を深めていくと、「この小屋、家賃いらさないから使って」「この木材あけるから、何かに活用しなよ」と声をかけてくれる方がいて、助けられています。趣味の延長ではじめて空き家の改装も、今では立派な事業の一環になりつつあります。

それに、コンサルタントやIT事業の面でもメリットが大きいですね。高齢化が進んだ地域で暮らすことで、将来日本が必要とされるサービスや製品のヒントをリアルに感じることができずから、市場調査や提案材料を探す上でも大変役に立っています。

これから田舎への移住を考えている人は、ぜひ「この地域に足りない、あなたの持っているスキル」を持ち込んでほしいですね。田舎に足りないスキルを披露させていくことで、その地域に貢献でき、発展させていくような。そういう意欲のある人たちなら、これから求められる「移住の先端モデル」になれると思うし、ビジネスをする上でも無限の可能性が広がるような気がします。



仕事場として利用しながら改装を進めているカフェスペース。水窪川が目の前に流れる自然豊かなロケーションだ。「カフェの店長をやりたい方、NPO法人の運営に携わったことのある方、システムエンジニアの経験のある方を募集！」とのこと。

LIVE IN THE COUNTRY

私たちが移住しちやいました
憧れの田舎暮らしを叶えた人たち

美しい自然に囲まれ、のんびり穏やかに暮らしたい。畑を持ち自給自足の生活をした。創作活動をした。様々な想いを胸に、北遠地域へ移住する方が増えている。ここでは、田舎暮らしを満喫する2組のファミリーにお話を伺った。



富士川 凜太郎
さん
浜松市天竜区水窪町
移住歴2年



Profile

都内の大手総合電機メーカーに3年間勤務。知人から経営コンサルタントの仕事に誘われたことをきっかけに会社を辞め、天竜区水窪町に移住。現在、経営コンサルタント、IT関連の新規事業立ち上げ支援、NPO法人サポート、地元特産品の通販サイト運営、空き家の改装など、幅広いジャンルの事業を展開。妻と愛娘の3人家族

東京在住・水窪町出身者で構成される「東京みさくほ会」にも参加している富士川さん。年に2回、東京で懇親会が開かれており、今回は10/5に開催予定。詳細はフェイスブックページにて (<https://www.facebook.com/MisakuloLikers>)

- 合同会社 simple A <http://simplea.cc/tbs/>
- 水窪通販サイト MISAKUBOX <http://www.misakubox.com/>
- NPO法人まちづくりネットワーク WILL <http://misakubo-will.net/>